

(1)



「生活科」シャボン玉遊び  
一年生の生活科の学習で、シャボン玉づくり  
に挑戦しています。  
(当麻町立当麻小学校)

No. 103 (平成21年11月2日)

おもな内容

	ページ
随想	1
教育講演会の概要	2
研究室だより	3
研修講座寸描	4～8
心に残る授業 その58	8



初心忘るべからず

上川教育研修センター

副所長 相澤 政義

「教育改革」と言われるようになってからどのくらいの時間が経ったのであろうか。

「新しい学力観」、「支援」、「ゆとり」、「生きる力」等々の言葉が行き交い、「教育改革の波」が打ち寄せ、その波が返らないうちに、また新たな波が打ち寄せるといふ状況が続いた。学校は、その度に、大きな波をかぶることもしばしばである。

確かに、少子高齢化、家庭・地域社会の変容、高度情報化、科学技術の発展と地球環境問題の深刻化など、子ども達を取り巻く環境が大きく変わって来た。そのような中で、教育基本法の改正、教育三法の改正、そして、新しい学習指導要領の告示と、教育は、大転換期を迎え、変革の嵐の真っ直中である。しかしながら、どんなに時代が変わろうと、「教育は人なり」と言われるように人間は教育によって作られ、その教育の正否は教師にかかっていると云っても過言ではない。教職に対する強い情熱、教育の専門家としての確かな力量、そして総合的な人間力は、いつの時代にも求められ、加えて、変化の激しい今の時代だからこそ、コミュニケーション能力などの人格的資質や最新の専門的知識や指導技術等を身に付けることがこれまで以上に求められ

ている。「初心忘るべからず」。これは、世阿弥の言葉である。

世阿弥は、能の風姿を花にたとえ、「その風を得て、心より心に伝わる花なれば、風姿花伝と名づく」という能楽論『風姿花伝』をはじめとして、度々「初心」について述べている。

「能の役者でもそこその年齢に達すると、舞台上上がったも、馴れてきて平気になる。そうなると危ういかな。つい初心を忘れ熱意なく、外見上は上手に舞った舞台上に花がない。」つまり、ある程度の経験を積むと、周りから誉めそやされ、「時分の花」を「真実の花」と見誤り、咲き誇った花を枯らしてしまうこともあるという。「芸が上達していく過程においても、徐々に段階を踏んでいくわけであるから、その段階、その段階における初心があるはずである。芸を上達させたいのであれば、その時々々の初心を忘れてはならない。」と世阿弥は言うのである。教職にあっても、常に、自戒の念を持ち、「学びの精神」を忘れることなく研修に勤しみ、教師としての力量を身に付け、「誠の花」を咲かせる不断の努力が必要なのである。



「技術科」生物育成  
校内の一角に畑をつくり、ミニトマト、なす、えだまめ、ジャガイモを栽培しています。生徒が雑草や摘芽、水やりなどに取り組んでいます。  
(旭川市立六合中学校)

センター日記

- 7月14日 夏季拡大研究室会議
- 7月27日～28日 道研連夏季所員研
- 7月27日～8月6日 研究室夏季集中研
- 8月4日 夏季合同所員研修会
- 8月19日 センター組合議会運営委員会
- 11月2日 センター組合議会本会議
- ※毎週 火曜日 定例研究室会議
- ※随時 研修講座講師打合せ会議

# 上川教育研修センター 教育講演会 新学習指導要領における

## 小学校外国語活動・中学校外国語(英語)の展開

大阪樟蔭女子大学 教授 菅 正 隆



### 日本の英語教育のはじまり

一八五三年にペリーが来航し鎖国が終わり、初めて英語文化が日本に入ってきた。一五〇余年になる。当時、外国語を学ぶ目的は、交流よりも、諸外国の各種文献を正確な日本語に訳すことであった。日常生活で、外国人と接する機会ほとんどなく、英語との接点は文献を読むことだけであった。その過程で、「聞く・話す」ための英語教育ではなく、「世界的にも珍しい」文を訳す「訳読教育」が始まり、現在まで続いている。これから始まる小学校での外国語活動は、中学校の外国語教育を前倒しするのではなく、「話す・聞く」という新しい文化を創っていくことにある。

### 小学校での外国語活動のきっかけ

昭和六十一年四月、臨教審答申にて、小学校への外国語活動の導入が検討された。日本人のTOEFLの結果が、常に世界ワースト二位となっており、中高六年間だけでは外国語活動の成果が出ないと報告された。「国際理解・グローバル化(SGI)」「コミュニケーション(HI)」を大きな柱として、二十二年間に渡る調査・研究が進められた。

平成十八年三月二十八日、中教審外国語専門部会によって小学校での必修化が

提言された。この時期を境に、英語に関する通塾率上昇を始め、英語教育に関わる市場が活性化した。半面、英語教育の導入で「国語が危ない」という声も増えた。

外国語活動導入の後押しになったのが、小学校でのいじめや暴力事件、言葉が出ず手が出る、言葉の意味がわからない、話を聞かない、といった「コミュニケーション能力の低下・欠如」が問題視されたことである。

今回の新学習指導要領の第一の趣旨は「言語力育成」である。国語だけではなく、全ての教科を通して「言葉」を育てることが重要になった。そのため、同じ言語を中心に使う「外国語活動」もコミュニケーション能力を高める役割を担っている。

### 外国語活動導入の理念

一 適応力  
年齢が低ければ低いほど、子どもは何にでも興味を示し、かつ適応力が高いといわれて海外渡航者)では、七歳までに渡米するとネイティブ並の語学力を身に付けられるという、世界的に認知されたデータがある。

二 グローバル化  
「なぜ、日本だけ小学校で英語を教えないのか？」今回、日本でも必修化されたことで、アジア圏で小学校での英語活動を実施していないのはインドだけ

になった。  
世界的に「World Englishes」が始まっている。英語は世界共通の言語という考えで、それぞれの国の文化を背負った英語教育文化を創ろうとする動きである。今後は日本も独自の英語文化を創っていく必要がある。  
三 機会均等の確保

「総合的な学習の時間」で国際理解教育の一貫として英語を実施できることになり、学校による内容差が生まれた。この差が中学校教育に影響を与えてしまう。そこで、小学校で実施すべき最低限の外国語活動のラインを今回の改訂で明示した。

### 外国語活動の今後に向けて

小学校五年生、六年生で各週三十五時間、二年間で七十時間の学習では、英語は身に付かない。小学校外国語活動の役割は、人と交わってコミュニケーション活動をする、自分の考えを相手に伝える、人の言っていることを理解しようとする能力、態度、心を育てること。専門的なことは中学校にまかせ、英語に対する抵抗感をなくすことが大事である。

小学校では、担任が英語活動を指導する。英語をコミュニケーションの道具として抵抗なく活用できるようにしたいからである。声を出そうとしている、話を進めようとしているなどの子どもの変化に気づき、その力を伸ばしてほしいと考えている。

英語ノートは、全国の研究開発校の実践を通じた研究成果から生まれたものである。多くの学校で使われている「単語、表現、テーマ」を集約したものである。副読本扱いであるが、学習指導要領を具現化したものであり、中学校の教科書と関連した部分が多い。今後、英語ノートの内容が中学校の英語導入時の内容とリンクして新教科書がつくられていく。小

学校で聞き、話してきた英語が、中学校で単語・文章の文字として理解できるように系統性が図られている。  
小学校に外国語活動を導入すること、コミュニケーション能力や意欲を高める機会を増やすことが目的であり、スキル向上が目的ではない。

### まとめ

小学校の外国語活動はあくまでも全教育活動の一部である。FunではなくInterestingな喜びが大切である。

評価については、形成的評価が大切である。観点は「言語や文化」「積極的なコミュニケーション」「音声や表現」であり、「しよ」として「話す」という文末表現で、評価基準を作っている。

これからの中学校英語の最初の授業は、英語で自己紹介する場面が増えるだろう。しっかりと話すことが目的ではなく、「人前にでてくる」「英語で話そう」と努力する姿勢が見えれば、小学校での外国語活動は成功したといえる。正しく書くことは、中学校で実践できればよい。文字から入ると、聞くこと

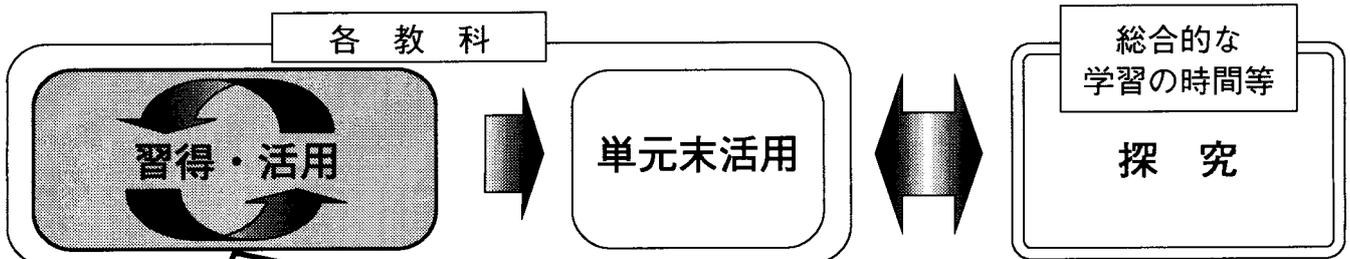
がでなく、音に慣れ、抵抗感をなくすために、「聞く・話す」という活動を実践してほしい。英語でコミュニケーションしてみようという心を育ててほしい。



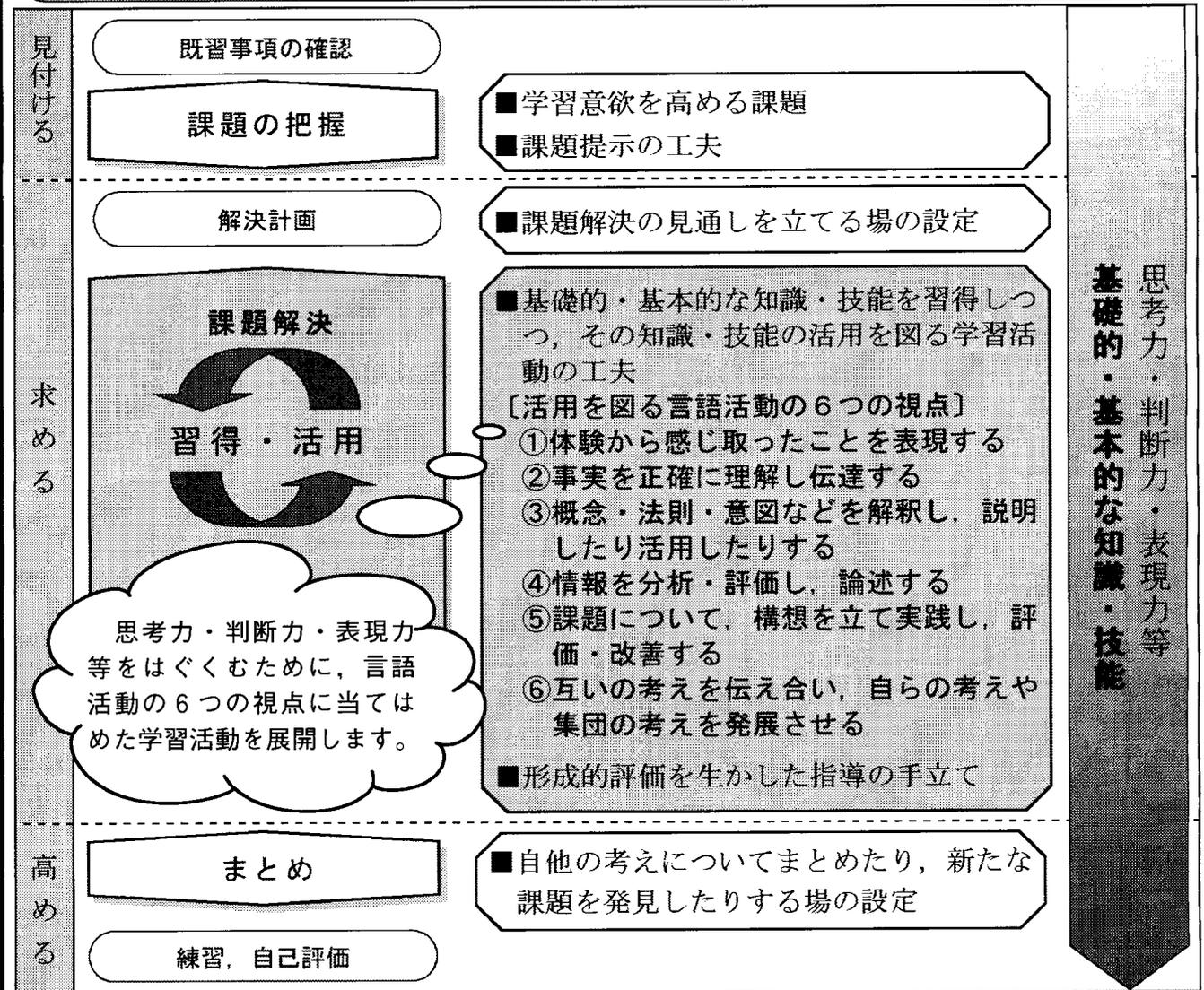
今、研究室  
では…

上川教育研修センター 第14次研究 ~2年次~  
研究主題  
思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習指導の在り方

今回のセンター便りでは、研究内容3の「授業展開の工夫」から、「習得・活用」の過程における1単位時間の授業の基本型についてご紹介します。この基本型は、本センターの研究を普段の授業で使っていただくため、最も基本となる部分と考えます。ご一読の上、各学校での実践に生かしていただけましたら幸いです。なお、研究内容の詳細、授業実践の具体につきましては、平成22年2月の「センター研究発表会」、ならびに3月発行予定の「研究紀要」第35号でご紹介します。



「習得・活用」の過程における1単位時間の授業の基本型



※ は基本的に設定するが、 は省略する場合もある。網掛けは重視する箇所。

研修講座  
寸描 その2

「確かな学力」を身に付けさせるための研修講座  
— 受講者の声から —

2 学級経営 5/21・9/9



主人公の気持ちの変化を読み取っている様子 (永山小)



目標達成に向けての考えを交流している様子 (永山中)

本講座では、学級経営の基本的な考え方や展開について、講師の方から大変参考になるお話を聞くことができました。特に、「子どもと作る学級」の大事さを改めて学びました。豊富な資料でわかりやすくご指導いただきありがとうございました。

(剣淵町立剣淵中学校 柴田晃宏)

子どもたちが実に明るく、生き生きとした表情で教科や学級活動に取り組んでいる姿が印象的でした。子ども一人ひとりにとって「心の居場所」となる学級経営の大切さを大いに学ぶことができました。どうもありがとうございました。

(音威子府村立音威子府中学校

川村 忍)

9 小学校外国語活動 6/17



今日、学習する単語を確認している様子



受講者がTouch the baseのActivityに取り組む様子

外国語活動の指導方法や人材活用について、貴重なお話を聞くことができました。演習では、ゲームなどの活動を通して、教師もコミュニケーションを楽しむことが大切だと感じました。学んだことをこれから実践していきたいと思えます。

(士別市立士別南小学校

宮原希美絵)

10 ミニ道研A 6/23

▼自分のパートナーを、第三者に紹介しあう様子



▲各校での情報モラル教育の現状について交流する様子

午前の「情報モラル教育の推進」では、携帯電話が普及する中での現状や情報モラル教育の実際を学ぶことができました。午後の「授業技術の改善」では、模擬授業を交えながら、授業の基本を改めて学ぶ良い機会となりました。

(旭川市立愛宕小学校 須賀昌俊)

11 学校経営Ⅱ 6/24・25



教頭に求められる資質について、要点がわかりやすく焦点化された講義内容でした。これから職務を遂行する上での課題や、身に付けるべき力量を確認することができ、大変有意義な二日間となりました。ありがとうございました。

(士別市立温根別中学校 稲葉泰愛)

株式会社コサイン代表取締役 星 幸一講師による「学校教育への期待」の講話に熱心に聞き入る様子

(5)



12 複式教育 7/1・2

◀ 3年生と4年生の算数の授業「わり」の様子

▲ 「複式教育における今日的な課題」の講義の様子

(名寄市立風連下多寄小学校 河田弘康)

今年から初めて複式教育に関わることになり、日々、勉強の毎日です。今回学んだ「複式教育の特性を生かした学習指導の工夫」は、とても勉強になりました。日ごろ「授業の工夫」に心がけ、今後の学習指導の充実に努めていきます。

旭山動物園からGTを招いての研究授業で、具体的な活動を取り入れた指導の在り方を学びました。また各校からの実践報告や講義を通じて、生活科での指導と評価について理解を深めることができました。ご指導ありがとうございました。  
(名寄市立名寄西小学校 山崎 茜)



▲ ひよこのお世話を通して気づいたことをみんなに聞いてもらう様子

13 生活科指導 7/8

▼ 授業後の研究協議でテーマについて交流する様子



19 技術・家庭科実技 7/29

教育大での生物育成の実習でトマトの摘芽を行う様子

午前は研修センターで生物育成に関する技術の中で、特に栽培についての講義や教育課程の講義をしていただきました。午後からは教育大学の実習畑でトマトの摘芽などを実際に体験させていただきました。とても有意義な研修を深められました。  
(旭川市立神居中学校 工平祥広)

21 体育科実技 7/30



フープをつかった体づくり運動にペアで取り組む様子



「新学習指導要領の変更点」についての講義を受ける様子

指導と評価の一体化に向けた学習指導のあり方について解説いただき理解を深めることができました。体づくり運動とボール運動の指導の展開例など、実技を通してご指導いただきましたことを、今後の実践にいかしていきたいと思えます。  
(旭川市立知新小学校 高田由基)

20 学級経営Ⅲ 7/30・31



社会福祉協議会の福祉体験実習に取り組む様子

各校の実践交流、「心の健康」の専門医の講話や福祉体験等、自身の濃い研修となりました。特に杏澤指導主幹のリーダーシップ論のお話は印象に残りました。お忙しい中、有意義な時間を提供していただき、本当にありがとうございました。

(愛別町立協和小学校 石橋祥子)

22 書に親しもう 8/3

今回初めてこの講座に参加しました。実技の要点、作品の作り方を非常にわかりやすく教えていただき、書くことの楽しさを味わうことができました。今後の授業の中にいかしていきたいと思えます。わかりやすくご指導いただき大変ありがとうございました。

(美瑛町立美瑛中学校 長澤美由紀)



▲自分なりの表現で好きな言葉を書いている様子

◀受講者の作品について講師の先生から講評をいただいている様子

23 国際理解教育 8/7

国際理解教育は、特別な方法で外国とのつながりを学習するのではなく、各教科の中にちりばめられた「他者理解」の要素や自分の思いを発信することから始まること知りました。この考えをこれから実践し発信していくことを学びました。

(旭川市立春光小学校 尾崎麻衣子)



ワークショップで指導案づくりに取り組む様子



「国際理解教育の意義」について講義を受ける様子

24 図工・美術科実技 8/26

▼自分なりのスタンプを作ってローラー遊びの題材に取り組む様子

新学習指導要領における「造形遊び」の考え方をわかりやすく講義していただきました。実習を通して造形あそびの即興性や創る楽しさを子ども視点に立って味わうことができ、大変有意義で実践的な講座でした。ありがとうございました。

(旭川市立新町小学校 加藤佳代)



▲常磐公園にある木や草を使って環境を題材に、思い思いの造形遊びに取り組む様子



(7)

25 音楽科実技 8/27



歌唱表現と指導方法の工夫について講義を受けている様子



5年生「豊かな表現」で私たちの「ハローシャイニングブルー」づくりに取り組む様子

この度の研修では、子どもたちが主体的に工夫する授業を見せていただいたり、歌唱指導や指揮法を実践しながら学ぶことができ、大変勉強になりました。また、受講者全員で合唱や様々な音楽活動を楽しめて有意義な研修でした。  
(中富良野町立中富良野中学校 熊谷奈緒美)

26 書写実技 8/27

書写教育の現状、授業の実際、実技の要点、作品の評価の仕方等すぐに授業に役立つ有意義な研修でした。子ども自身が課題を見つけ、様々な方法で追求していく大切さを改めて学びました。ご指導いただきありがとうございます。  
(旭川市立愛宕小学校 遠入真弓)

▼自分の名前を書く時も、しっかりとバランスを意識して書くことを実践を交えて説明している様子



▲文字の組み立てを考えてバランスがよくなるように書いている様子



▲相手をほめることで互いのよさを認め合っている様子 (9/7 土別南小)

▼望ましい特別支援教育のあり方について、実践例をもとに研究協議を行っている様子 (9/28 中里小)



後木由佳

出前講座 特別支援教育

特別支援教育の理念や生徒指導との関わりなど、実践に基づく内容は大変わかりやすく理解を深めることができました。特に、全ての子どもへの困り感に目を向けることの大切さを改めて感じました。中川で開講いただきありがとうございました。  
(6/23 中川町立中川中学校 竹内千晴)

津川先生のお話を聞いて、今の学級経営への意欲がわきました。子ども達一人一人が自己有用感を感じ、自分に自信がもてるよう、「あなたならできる!」と励ましていきたいと思えます。貴重な資料も、ありがとうございます。  
(7/30 旭川市立大有小学校 後木由佳)

出前講座 パソコン講座



スカイメニューの活用法について説明を受けている様子

センターの出前講座では、スカイメニューの活用法についてご指導いただきました。基本的な使い方から日々疑問に思っていたことの解決法まで、講師の橋本先生には本当に丁寧な教えていただきました。新学期初日という大変お忙しい時期に、また遠方からお越しいただいたことに感謝申し上げます。今後教えていただいたことを授業の中で生かしていくために、普段から積極的に活用していきたいと思えます。ありがとうございます。  
(8/19 名寄市立名寄南小学校)

【お知らせ】  
当センターのHPでも各講座の様子や感想をみることができます。



小学校外国語活動を進める上での課題について研究協議を行っている様子 (7/9 東神楽小)



Activityに取り組む様子 (8/18 台場小)

出前講座 小学校外国語活動

講話の中で外国語活動の在り方を具体的に示していただき、指導計画の立案に対する迷いが減りました。また、より実践的なアクティビティを体験し、児童目線での活動を考えることができました。ご指導ありがとうございました。

(6/30 土別市立土別南小学校 神戸真矢子)

出前講座 生徒指導

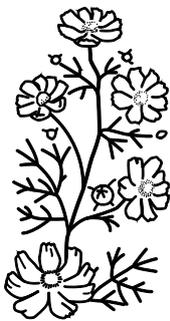


生徒指導の機能を生かす学習活動について説明を受けている様子

生徒指導の理論と諸問題について、具体的な事例や演習を交えながら、わかりやすくご指導いただきました。日ごろの生徒指導の実践を改めて見直し、今後の指針を得ることができた有意義な講座でした。大変ありがとうございました。

(6/18 旭川市立神居中学校

山辺慎太郎)



心に残る授業

その 58

思いを伝える背中

北海道教育庁上川教育局

義務教育指導班

指導主事

藤原 雅 宏



今年度から、新学習指導要領の一部先行実施が開始され、上川管内の多くの小学校で外国語活動の授業が行われています。このような中、ある小学校で行われた外国語活動の授業が、強い印象として記憶に刻まれているので紹介します。

それは、ALTとのチーム・ティーチングによる授業で、六月と九月の二回参観する機会をいただきました。六月の授業では、学級担任とALTが英語を使ったコミュニケーション活動を演示し、子どもたちは、そのやりとりを真似しながら、絵カードを探したり、ゲームをしたりするなど、英語を使って楽しみながら活動していました。

授業後の研究協議では、学級担任が「英語を使うモデル」となり、ALTに自分の思いを伝えようとしている姿は、必ず子どもたちに伝わることをお話しさせていただきました。

九月、公開研究会で外国語活動を公

開していましたが、私は、前回参観させていただいた学級へと向かいまして。

教室に入る前から、子どもたちとALTとの元気なやりとりが聞こえ、「前回とは、何かが違う。」と感じながら教室に入りました。

明らかに前回とは違っていました。子どもたちが、英語で直接ALTに話しかけたり、ゲームをしたりするなど、表情豊かに積極的に活動し、英語を使ってコミュニケーションすることに楽しさを感じていることがよく分かりました。

この日を迎えるまでに、学級担任がALTに自分の思いを英語で伝えようと努力していた姿から、子どもたちが得たものは計り知れないことを強く感じました。

「頑張れ!」、「やればできる!」など、言葉で励ますことはもちろん大切なことですが、自ら範を示すことや一生懸命な姿を見せることの大切さ、そして、その姿を見て成長していく子どもの素晴らしさを改めて教えていただいた授業でした。

発行日 平成二十一年十一月二日  
発行 上川教育研修センター  
〒077-0003  
旭川市六条通四丁目  
電話(0166)241-2501  
横濱 拓哉  
責任者 東信印刷株式会社  
印刷所

※この用紙は再生紙(古紙70%)を使用しています。